

## ゴム引布及びプラスチック引布の 吸水試験が制定されました！

ゴム・プラスチック引布は多くの製品が建築材料に用いられることが多く、日常的に風雨にさらされています。引布が吸水すると、カビの発生により見栄えが悪くなったり、耐久性の問題が発生したりする可能性があるため、「吸水しない引布」が性能として求められています。今までは業界法のみが存在していましたが、JIS K 6404-3:ゴム引布及びプラスチック引布試験方法—第3部:物理試験(応用)が2020年6月22日に改訂され、新たに吸水試験が追加されました！

吸水試験は一般社団法人 日本ゴム工業会が中心となり、試験方法の原案作成を検討しました。同団体が組織した試験方法検討ワーキングにはボーケンも参画し、試験方法制定のための活動を支援しました。



### ゴム・プラスチック引布とは？

基布の片面又は両面に、ゴム又はプラスチックを塗布(コーティング)したものです。

ゴム・プラスチック引布は軽量、高強度、高气密な素材であるため、スタジアムなどの建築物の屋根やテント倉庫などで利用されており、案外馴染みの深い材料です。

活用例(写真提供:太陽工業 株式会社様)



スタジアムの屋根(東京ドーム)



屋内プール

### 試験方法の概要

試料を水に浸漬させ、最大吸水高さを確認する方法。

#### A法

赤インクを用いる方法(可視光の透過によって、吸水現象が目視で確認できる引布に適用)

#### B法

水分検出試験紙を用いる方法



A法:試験中の様子

各々の試験の特徴は以下です。

	A法	B法
適用	吸水している様子が目視で確認できる試料	濃色など、A法が適用できない試料
試料サイズ	幅(30±0.5)mm又は(50±0.5)mm、 長さ(300±0.5)mm 長さ方向・横方向 n=3	幅(30±0.5)mm又は(50±0.5)mm、 長さ(300±0.5)mm 長さ方向・横方向 n=3
試験用水	赤インク(万年筆用)をイオン交換水で 体積分率3%に希釈したもの	イオン交換水
浸漬時間	(72±1)時間	(72±1)時間
測定方法	最大吸水高さをスケールで0.5mmまで 測定する。	試験片を20mm毎に裁断し、裁断面を水分検出 試験紙(水の付着によって色が変わる試験 紙)に押し付けて吸水の有無を確認する。

上記の内容についてご不明な点等ございましたら、こちらまでお問い合わせください。

東京機能性試験センター  
担当: 坂井、太田

〒135-0001  
東京都江東区毛利1丁目12番1号  
TEL:03-5669-1380 FAX:03-5669-1381